

令和元（2020）年度 長岡大学シラバス

授業科目名	社会学（Sociology）					担当教員	米 山 宗 久 （ヨネヤマ ムネヒサ）		
科目コード	131030-14000								
科目区分	教養科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	1年次	開講期	前期
科目特性	知識定着・確認型 AL／協同学修型 AL／資格対応科目								

① 授業のねらい・概要
<p>私たちを取り巻く「社会」とは、どのように成立しているのか？「社会的なもの」と「個人的なもの」とはどのような関係にあるのか？私たちの生活している地域社会を基本としているコミュニティの視点と個人としての視点で考察する。本講義では、社会の位置づけ、地域社会における集団・家族・環境・教育・格差・メディアの各領域の現状と課題を明らかにする。できるだけ発言の機会を設けるとともに、学修内容の理解を深めるために視聴覚教材も活用する。</p>
② ディプロマ・ポリシーとの関連
<p>職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力を養う。</p>
③ 授業の進め方・指示事項
<p>教科書に基づき、追加的事項を補足しながら遠隔授業で進める。小レポートの内容を基に、フィードバックを行う。そのために ZOOM を使用して協同学修型 AL としてディスカッションを行う。資料の提供などは、Google classroom を使用する。</p>
④ 関連科目・履修しておくべき科目
⑤ 標準的な達成レベルの目安
<p>(i) 社会学の概念を理解する。                  (ii) 社会現象を考察して理解する。                  (iii) 相互行為と自分の意味を理解する。                  (iv) 地域社会・コミュニティを理解する。                  (v) メディアや情報の社会的影響を理解する。</p>
⑥ テキスト（教科書）
<p>工藤保則・大山小夜・笠井賢紀（2018）「基礎ゼミ 社会学」世界思想社</p>
⑦ 参考図書・指定図書
<p>篠原清夫・栗田真樹（2018）「大学生のための社会学入門」晃洋書房</p>

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	50%			40%		10%		100%
(i) 社会学の概念を理解	10%			8%		2%		20%
(ii) 社会現象を考察して理解	10%			8%		2%		20%
(iii) 相互行為と自分の意味を理解	10%			8%		2%		20%
(iv) 地域社会・コミュニティを理解	10%			8%		2%		20%
(v) メディアや情報の社会的影響を理解	10%			8%		2%		20%
フィードバックの方法	小レポートは ZOOM を使用してプレゼンテーションを行う。 試験や小レポートは、Google classroom を使用する。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
社会福祉主事任用資格の取得及び福祉住環境コーディネーターを目指すなど、公務員や福祉関係の職業を希望している学生は必ず受講してもらいたい。小レポート課題は、8 回程度を行う。双方向でのコミュニケーションを意識した授業を目指して行く。

⑩ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）
1	オリエンテーション	テキスト	社会についての基本的な知識と理解 30分
2	自分と他人の関係	テキスト	相互行為と自我や意味の形成の知識と理解 60分
3	家族	テキスト	家族などの関係性の知識と理解 60分
4	福祉や教育	テキスト	福祉と教育の地域と理解 60分
5	地域社会	テキスト	都市・農村の知識と理解 60分
6	労働	テキスト	労働・消費と企業・産業の知識と理解 60分

7	文化	テキスト	文化の知識と理解	60分
8	メディア	テキスト	メディア・情報・コミュニケーションの知識と理解	60分
9	ジェンダー	テキスト	ジェンダーの知識と理解	60分
10	エスニシティ	テキスト	グローバリゼーションの知識と理解	60分
11	格差	テキスト	階層・階級・社会的不平等の知識と理解	60分
12	社会問題	テキスト	社会病理・社会問題の知識と理解	60分
13	社会運動	テキスト	社会運動・NPOなど改革の知識と理解	60分
14	自然環境	テキスト	人間と自然環境の知識と理解	60分
15	政治	テキスト	国家・政治・権力の知識と理解	60分

⑪ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL を採用する。小レポートの内容を基に、フィードバックを行う。そのために協同学修型 AL では、ディスカッションを行う。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

行政機関・社会福祉協議会・民間福祉施設では、生活保護・障害者福祉・高齢者福祉・ひとり親家庭福祉・児童福祉・介護保険制度や児童館に関わる行政業務、ボランティア支援・市民協働活動・福祉教育に関わる地域福祉・ソーシャルワーク業務、利用者の処遇・生活支援・相談業務に関わる利用者支援業務に従事してきた。また、行政計画である「地域福祉計画」「地域福祉活動計画」「介護保険計画」「障害者計画」の計画策定を行った。さらに「長岡市高齢者保健福祉推進会」「長岡市地域包括支援センター運営部会」「長岡市福祉有償運送運営協議会」「長岡市福祉施設指定管理者選定委員会」「長岡市男女共同参画審議会」「長岡市障害者施策推進協議会」「長岡市民生委員推薦会」などの委員を歴任している。

#### 実務経験と授業科目との関連性

行政機関・社会福祉協議会・民間福祉施設における経験から、社会に起きている事項について、客観的視点、主観的視点、支援者の視点、住民の視点など多角的視点から社会を見ることを学生に伝えることができる。

たとえば、家族関係が希薄化する原因、家族内で起こっているDVや児童虐待の現状、課題と対策の必要性を伝えることができる。さらに行政として対応した実体験として、相談機関や保護機関を理解してもらうための必要性も伝えることができる。

また、地域福祉計画や地域福祉活動計画においても、市民が行う活動の現状と課題・問題点が明記されている。それらの知識を学生に伝えていくことによって、学生は現状と課題をまとめたり、課題解決策を導き出す能力を養うことができる。